# 横浜市立 末吉小学校　　学校評価報告書　　（ 令和 元 ～ 3 年度 ）

| 重点取組分野 | 令和　元　年度 | | 総括 |
|---|---|---|---|
| | 具体的取組 | 自己評価結果 | |
| 生きてはたらく知 | ①「主体的・対話的な深い学び」の実現に向け、主に国語科の重点研究を通して授業改善を図り、子どもたちが自ら問題を見出し、主体的に問題解決をしていく力を育成する。②学力学習状況調査の結果を分析し必要な資質・能力を明確にすると共に、基礎・基本の定着を図る。 | ①国語科を中心に重点研究に取り組み、相手意識や目的意識を大切にすることで子どもたちが主体的に学ぶことができる授業づくりを進めた。言語活動のより一層の充実を図りたい。②学力学習状況調査の結果分析をもとに、学ぶ楽しさを実感できる授業づくりをさらに進めていく。 | B |
| 豊かな心 | ①たてわり活動を中心とした異学年交流を充実し、それぞれの学年が役割を意識して活動していく中で、子どもたちの自尊感情を高めていく。また、あいさつ運動を継続し、活発に挨拶が交わされるようにする。②道徳の授業を授業参観で公開し、家庭とも連携して道徳教育の充実を図る。 | ①たてわり活動が充実し、異学年交流を通して、自他ともに大切にしようとする姿が見られた。あいさつ運動をさらに充実させ、より活発にあいさつができるようにしていく。②道徳の授業を各学級1回は公開し、教材も家庭と連携できるものを工夫するようにした。 | B |
| 特別支援教育 | ①適切な特別支援教育を行うため、関係機関との連携を図り、研修を実施していく。また、取り出し・入り込み指導等の少人数指導を充実させ、個の力を伸ばしていく。<br>②特別支援教室の整備を行い、個々への多様な対応を柔軟にできるようにする。 | ①特別支援が必要な児童が増加していく中、少人数指導や取り出し、入り込み指導への時間確保が難しかった。教職員それぞれの特別支援教育への力を伸ばしていきたい。②個別支援学級の学習や活動の場の設定は充実してきた。国際教室と同様、特別支援教室の整備をしていく。 | B |
| 健やかな体 | ①自ら運動に親しみ、体力向上に取り組む姿勢を育成するため、日々の体育学習の充実を図り、一校一実践運動の立案、運営を行う。②自分から生活習慣の改善、健康な生活を送ろうとする意識や実践力を高めるため、食育や保健活動、学校保健委員会の充実を図る。 | ①1校1実践のなわとび運動を行った。運動に親しみ体力向上に取り組む姿勢が育まれるよう、年間を通じて継続的な取組を進める必要がある。②食育の授業や給食の時間を通して食の大切さを、学校保健委員会で手洗いの大切さを学んだが、健康な生活を送る意識付けをしていくには課題がある。 | B |
| 児童指導 | ①末吉スタンダードを家庭・学校が共有して支援を行うと共に、必要に応じて見直しや改善を図り、教職員全員が共通した指導・支援にあたる。また、職員会議や打ち合わせで情報交換を随時行う。②中・高学年で交換授業を実施し、学年児童全員と関わりながら指導にあたる。 | ①末吉スタンダードについて学校で共通理解の場は設けられているが、教職員全員に十分浸透しているとはいえない。教職員一人ひとりの意識を高めていきたい。職員会議等での児童の情報共有はよくされていた。②各学年に実態に合わせた交換授業を実施し、学年で組織的に児童の指導にあたるようにした。 | B |
| 地域連携・学校運営協議会 | ①「花育活動」「地域ふれあい給食」「地域ふれあい清掃」など、地域とふれあう活動を大切にし、「まち」や「人」とのつながりを大切にした授業や活動の充実を図る。②学校づくり懇話会や地域の方と学校運営協議会の意義と役割について共有し、協議会設置に向けた準備を行う。 | ①地域とふれあう活動を大切にし、実施してきた。子どもと地域の方々がじっくりと関わることができる活動の在り方を検討してきたので、来年度に生かし、おり一層充実させていく。②学校運営協議会について、中学校ブロックでの設置準備を進めている。 | B |
| 幼保小中の連携 | ①スタートカリキュラムを実施し、入学後の学校生活を安心しておくことができるようにする。<br>②幼・保及び中学校との連携を密にし、児童理解を目的とした情報交換を行う。また、園児の学校訪問や児童生徒交流日等、子どもたち及び教職員の交流を推進する。 | ①新1年生がスムーズに学校生活になじめるように取組み、落ち着いて学校生活をおくている。来年度は、新学習指導要領に求められている幼保との接続をさらに充実させていく。②幼保小中の連携を密にし、定期的に交流をしてきた。来年度は、年間を通して、学校全体での交流を推進していきたい。 | B |
| 人権教育 | ①人権教育全体構造図をもとに、人権教育年間指導計画を見直し、人権週間を中心とした人権教育の実践を進める。 | ①本年度は、中学校ブロックでの人権の公開授業があり、人権意識を高めるための実践を行った。年間を通して意識をさらに高めていく。また、人権週間の取組は、今年度の反省をいかし、見直していく。 | B |
| いじめへの対応 | ①学校いじめ防止基本方針に基づき、月2回、いじめ防止連絡会を開いて各学年の情報を共有し、いじめの早期発見・早期解決に努める。いじめを確認した場合は早急にいじめ防止対策委員会を開き、迅速に対応する。②年3回のアンケートにより、些細な変化を見逃さない体制づくりを行う。 | ①いじめ防止連絡会を週1回開いて各学年の情報を共有し、いじめの早期発見・早期解決に努めることができた。児童指導においても、迅速に対応することができた。②年3回のアンケートにより、それぞれの児童に寄り添い、変化を見逃さない体制をつくってきた。今後ともこの体制を維持したい。 | A |
| 人材育成・組織運営（働き方改革） | ①キャリアステージに応じた課題や目標を面談により設定し、学校運営に参画できるようにする。また、ミドルリーダーや主幹がメンターチームの講師として活動を行う。②主幹会を週に1回行い、学校運営上の議題を協議する。③グループウェアを効果的に活用して、情報の共有化、事務の効率化を図るとともに、教育活動外の業務を職員全体で見直し、意識改革を図って働き方改革につなげる。 | ①キャリアステージに応じた目標設定および校内外の研修により、人材育成に取り組んできた。メンターチームの課題について来年度も取り組んでいく。②主幹会での学校運営上の情報共有を行った。③グループウェアの活用による事務の効率化、働き方改革の視点での話し合いなど、働き方改革に取り組むことができた。 | B |
| **ブロック内評価後の気付き** | 「9年間の学びの連続性」というテーマをもとに、各教科ごとに情報交換・共有を行い、授業の中でどのように資質・能力を身に付けていくかを検討した。小中合同授業研究会では、「教科で育成を目指す具体化した資質・能力」を明確にして授業研究を行い、教科・領域ごとにブロックの児童・生徒の特性や課題を話し合うことを通して、「学びの連続性」について共通理解を深めることができた。児童生徒交流では、中学校の授業と部活動を見学し、中学校生活への見通しをもつ一助となった。また来年度は評価の観点でも小中の共通理解を深めていきたい。 | | |
| **学校関係者評価** | いじめの対応について学校は努力していることが伝わっている。今後も早期発見・早期解決に努めてほしい。地域連携に関しては、「ふれあい給食」に参加した方々から高い評価を得ている。地域の方々にとって、子どもたちとのふれあいが大きな喜びとなっている。「花育活動」でも地域とのふれあいを大切に内容を改善してほしい。たてわり活動を通して高学年の子どもたちの育ちが見られる。豊かな心を育成するためにも様々な活動の中で継続してほしい。特別支援教育充実のためにも、ボランティア等の人材不足は大きな問題である。地域も人材の発掘に協力していく。 | | |
| **中期取組目標振り返り** | 来年度の新学習指導要領実施に向けて準備を進めてきた、中期学校経営方針の1年目である。「主体的・対話的な深い学び」をどのように実現していくか、適切な特別支援教育に学校としてどのように取り組むか、働き方改革と人材育成にどのように取り組むか、教職員で話し合うことにより、それぞれの課題をが明確になった。特別支援教育は、人的配置も含めて力を入れ、地域連携は、子どもの発達段階に合わせて、幼保小の連携は推進地区として取り組んでいきたい。いじめへの対応やたてわり活動については、引き続きこの体制を維持していく。 | | |

| 重点取組分野 | 令和　2　年度 | | 総括 |
|---|---|---|---|
| | 具体的取組 | 自己評価結果 | |
| 生きてはたらく知 | ①校内重点研を中心に、「主体的・対話的な深い学び」の視点に立った授業改善を図り、子どもが分かる喜びを実感できるようにする。②学力・学習状況調査の分析などをもとにして、子どもの理解状況や課題を的確に把握し、それに合わせて基礎・基本の確実な定着を図る。 | ①学年で授業研究に取り組むことで、主体的に学ぶ姿が見られた。その成果を継続して取り組むことで、より一層の授業改善につなげていくことが課題である。②学力の個人差が大きく、基礎・基本の確実な定着のためには、取り出しやTTなどの指導の工夫・充実が必要となる。 | B |
| 豊かな心 | ①たてわり活動を中心とした異学年交流を充実し、それぞれの学年が役割を意識して活動していく中で、子どもたちの自尊感情を高めていく。②道徳の授業を授業参観で公開し、家庭とも連携して道徳教育の充実を図る。 | ①形式を工夫して少人数でたてわり活動を行うことで、6年生を中心に責任感や自尊感情を育むことができた。②授業参観での公開はしたが、分散での実施になったことで、全保護者に向けて公開することはできなかった。 | B |
| 特別支援教育 | ①適切な特別支援教育を行うため、関係機関との連携を図る。また、支援が必要な児童について情報を共有し、必要に応じて取り出し・入り込み指導等を行い、学校全体で支援していく。②特別支援教室の整備を行い、個々の児童の課題に寄り添い、多様なニーズに柔軟に対応できるようにする。 | ①特別支援が必要な児童が増加していく中、SCやSSW、区役所等の関係機関と連携しながら、児童についての情報を共有し、チームで対応を進めることができた。②空き教室を特別支援教室として準備することはできた。指導への人員確保が課題である。 | B |
| 健やかな体 | ①人とのかかわりを楽しみながら運動に親しみ体力向上に取り組む姿勢を育成するために、「できる喜び」を味わえる体育科学習の充実を図る。全校で「なわとび運動」に継続的に取り組めるよう、立案・企画を行う。②自分から生活習慣の改善、健康な生活を送ろうとする意識や実践力を高めるため、食育や保健活動、学校保健委員会の充実を図る。 | ①学校全体の活動としてのなわとび運動を計画したものの、実施することはできなかった。形式を見直し、今年度できなかった取り組みを来年度は行う。②日々の指導により、生活の仕方や健康についての意識・実践力はとても高まった。 | B |
| 児童指導 | ①末吉スタンダードを家庭・学校が共有して支援を行うと共に、必要に応じて見直しや改善を図り、教職員全員が共通した指導・支援にあたる。また、職員会議や打ち合わせで情報交換を随時行う。②各学年の実態に合わせた交換授業を実施し、学年で組織的に児童の指導にあたる。 | ①末吉スタンダードに基づいて指導をしているが、職員によって認識の差があるところが課題として残った。児童の情報共有はよくできた。②今年度は交換授業の実施が難しい状況で十分にできなかった。指導体制を整え、高学年を中心に交換授業を実施していく。 | B |
| 地域連携・学校運営協議会 | ①「花育活動」「地域ふれあい給食」「地域ふれあい清掃」など、地域とふれあう活動を大切にし、「まち」や「人」とのつながりを大切にした授業や活動の充実を図る。②末中ブロックでの学校運営協議会を秋を目途に設置をめざす。 | ①ふれあい委員会を新設し、地域と関わる活動を進めていく予定だったが、例年通りの活動をすることはできなかった。クラス・学年単位では、形式を工夫し地域とのつながりを大切にした活動をすることができた。②学校運営協議会について、令和3年度に設置する予定である。 | B |
| 幼保小中の連携 | ①スタートカリキュラムを実施し、入学後の学校生活を安心しておくことができるようにする。②幼・保及び中学校との連携を密にし、児童理解を目的とした情報交換を行う。また、園児の学校訪問や児童生徒交流日等、子どもたち及び教職員の交流を推進する。 | ①級外の職員で体制を組んでスタートカリキュラムを実施したことで、安心して学校生活をスタートさせることができた。②例年通りの交流はできなかったが、形式を工夫して交流することはできた。また職員間では幼保間・小中間で子どもについて情報交換をすることができた。 | B |
| 人権教育 | ①「人とのつながり」をテーマに、各学級で目標を定め、年間を通して人権教育に取り組む。児童のなかよし委員会を中心に挨拶運動を充実させ、一人ひとりが過ごしやすい環境づくりを推進していく。②人権週間では、本の読み聞かせや学級での話合いを通して、自他共に大切にしていく心を育てる。 | ①児童会活動を軸にあいさつ運動を全校で実施することができた。継続して成果を広めていく。②人権週間では、本の読み聞かせを通して、各クラスで人権について考えることができた。学年や学級の実態に合わせて取り扱う資料を工夫し、自分事として捉えられるようにする。 | B |
| いじめへの対応 | ①学校いじめ防止基本方針に基づき、週1回いじめ防止連絡会を開いて各学年の情報を共有し、いじめの早期発見、早期解決に努める。いじめを確認した場合は、早急にいじめ防止対策委員会を開き、迅速に対応する。②年3回アンケートを実施し、児童の思いに寄り添い、指導にあたる。 | ①いじめ防止連絡会を週1回開いて各学年の情報を共有し、いじめの早期発見・早期解決に努めることができた。児童指導においても、迅速に対応することができた。②年3回のアンケートにより、それぞれの児童に寄り添い、変化を見逃さない体制をつくることができた。 | A |
| 人材育成・組織運営（働き方改革） | ①キャリアステージに応じた課題や目標を面談により設定する。また、ミドルリーダーや主幹がメンターチームの講師として活動を行う。②主幹会を週に1回行い、学校運営上の議題を協議する。また、学校組織を見直し、全職員で学校運営ができる組織を目指す。③グループウェアを効果的に活用して、情報の共有化、事務の効率化を図ったり、組織・行事の見直しを行って、働き方改革につなげる。 | ①ミドルリーダー・主幹教諭がメンターチームに積極的に関わることで、経験の浅い先生の課題に対応することができた。②定期的に主幹会を実施し、学校運営上の課題を協議することができた。③グループウェアが定着し、効果的に活用して業務の効率化を進めることができた。 | B |
| **ブロック内評価後の気付き** | コロナ禍において、オンライン会議やメール等を用いて、情報共有を積極的に行った。そこでは、教育課程を再編成し、授業や行事の進め方を検討した。どの学校も感染症予防を講じながら、教育活動を進めることができた。課題としては、ブロックの「ぐるぐる」を、より意識して教育課程を再編成する必要がある。大切にしたい資質・能力を明確にし、教育課程に位置付けていきたい。小中のつながりとしては、子ども会議での「居心地のよい学校づくり」についての意見交流、個別支援級のビデオ交流（合同学習発表会の代わり）が挙げられる。どちらも、9年間の学びの連続性を意識することができた。 | | |
| **学校関係者評価** | 学校教育目標や中期取組目標とその振り返り、各学年の取組や活動をみると、学校も例年とは異なる状況の中、子どもの安心・安全を第一に考えて教育活動を行ってきたことがわかる。本年度は、懇話会の委員も学校行事などに参加することができなかった。しかしコロナ禍の中、学校も地域もできることを誠実に行ってきており、例年は地域と行っている花育も高学年児童が行った。直接には交流できなくても地域と学校が繋がっていることを感じた。来年度も子どもたちが元気で学校生活を過ごすことができるようにしていただきたいし、協力できることは協力していきたい。 | | |
| **中期取組目標振り返り** | 年度当初より感染症対策に追われたが、情報の収集と共有、教育活動に関する横浜市のガイドラインの理解を全教職員で行い、児童が安心安全な学校生活を過ごせるよう状況に応じた対応を行ってきた。児童指導やいじめへの対応は、児童支援専任を中心に組織的な体制で行い、それぞれに寄り添った支援をしている。たてわり活動や幼保小連携はできる範囲で実践を積み重ね、つながりを意識した教育活動を行った。校内重点研究やメンター研の授業研究、特別支援教育研修などを通して人材育成を図り、教員の授業力向上や児童支援の力の向上に努めた。 | | |

| 重点取組分野 | 令和　3　年度 | | 総括 |
|---|---|---|---|
| | 具体的取組 | 自己評価結果 | |
| 生きてはたらく知 | ①校内重点研を中心に、「主体的に学ぶ子ども」をテーマに授業改善を図り、子どもが分かる喜びを実感できるような授業づくりに取り組む。②子どもの理解状況や課題を的確に把握し、それに合わせて指導方法を工夫しながら、基礎・基本の確実な定着を図る。 | ①校内重点研では、学年で先行授業を行い、検討することで、子どもたちが主体的に学ぶ姿が多く見られた。②少人数指導やTT指導、またタブレットを活用した指導方法で、児童の理解を深めることができた。国際教室の学習の充実も含め、今後もより一層一人一人にあった指導の拡充を図り、基礎・基本の確実な定着を図っていきたい。 | B |
| 豊かな心 | ①たてわり活動を中心とした異学年交流を充実し、それぞれの学年が役割を意識して活動していく中で、子どもたちの自尊感情を高めていく。②道徳の授業を授業参観で公開し、家庭とも連携して道徳教育の充実を図る。 | ①たてわり活動では、少人数での活動や、交流の仕方の工夫をすることで、自他ともに大切にしようとする気持ちが高まった。今後は、異学年交流での学年ごとのめあてを明確にして、活動していきたい。<br>②道徳の授業公開については、昨年度と同様、授業参観での公開は行ったが、全保護者に向けて公開することはできなかった。 | B |
| 特別支援教育 | ①適切な特別支援教育を行うため、関係機関との連携を図る。また、支援が必要な児童について情報を共有し、必要に応じて取り出し・入り込み指導等を行い、学校全体で支援していく。②生活行動面で課題のある児童には、カンファレンスを保護者同伴で行うなど、自分の生活を見つめ直すきっかけを作るように支援する。 | ①関係機関との連携を図り、支援の必要な児童について情報を共有し、担任と取り出し担当教員との連携を密に行って指導に取り組んだ。②特別支援教育の教室で、個々の児童の課題に寄り添い、多様なニーズに柔軟に対応してきた。今後も、特別支援教育を必要とする全児童に対応できるよう、人的改善を行っていきたい。 | B |
| 健やかな体 | ①友達と関わることや運動に親しむことを楽しみながら、体力向上に取り組む姿勢を育成するために、一人ひとりが「できる喜び」を味わえる体育科学習の充実を図る。②自分から生活習慣の改善、健康な生活を送ろうとする意識や実践力を高めるため、食育や保健活動、学校保健委員会の充実を図る。 | ①体育科の学習の充実とともに、2月に長縄大会を実施し、友達と関わりながら運動に親しむ場面を設定することができた。本校児童に必要な体力を高められるよう、短縄を使った運動を、体育の時間や休み時間に継続的に取り入れていく。②教員や委員会児童の継続的な声掛けにより給食の時間の過ごし方（静かに過ごす）や手洗いが習慣化した。 | B |
| 児童指導 | ①末吉スタンダードを家庭・学校が共有して支援を行うと共に、必要に応じて見直しや改善を図り、教職員全員が共通した指導・支援にあたる。また、職員会議や打ち合わせで情報交換を随時行う。②各学年の実態に合わせた交換授業を実施し、学年で組織的に児童の指導にあたる。 | ①昨年同様、スタンダードの変更があったが、教職員の共通理解、家庭との連携をもとに、指導にあたれた。細かい点でのずれは、学年内で話し合い、変更が必要な場合は、教職員全員で共通理解を図るようにする。②各学年の実態に即して、学年内で交換授業を行うなど、組織的に児童の指導に当たることができた学年が多い。 | B |
| 地域連携・学校運営協議会 | ①「花育活動」「地域ふれあい給食」「地域ふれあい清掃」など、地域とふれあう活動を通して、「まち」や「人」とのつながりを大切にした授業や活動の充実を図る。②末中ブロックでの学校運営協議会を夏を目途に設置をめざす。 | ①感染症対策のため、給食・清掃などで地域とふれあう活動は難しかったが、地域のコープ見学やまちたんけんなどを通して、ふれあい活動を行うことはできた。状況に応じて、地域とのふれあい活動を増やし、充実させていく。②末吉中ブロックでの学校運営協議会を10月に設置し、学校だよりで周知した。第2回協議会が感染症拡大のため開催できなかったことは残念だった。 | B |
| 幼保小中の連携 | ①スタートカリキュラムを実施し、入学後の学校生活を安心して送ることができるようにする。②幼・保及び中学校との連携を密にし、児童理解を目的とした情報交換を行う。また、園児の学校訪問や児童生徒交流日、総合的な学習の時間等で、子どもたち及び教職員の交流を推進する。 | ①スタートカリキュラムを実施したことで、子どもたちが安心して学校生活をスタートさせることができた。4月は入学準備で慌ただしくなるので、スタートカリキュラムについての理解を深める時間を計画的につくるようにしたい。②形式を工夫して交流することができた。また教職員間では幼保間・小中間で子どもについて情報交換をすることができた。 | B |
| 人権教育 | ①「人とのつながり」をテーマに、各学級で目標を定め、年間を通して人権教育に取り組む。児童のなかよし委員会を中心に挨拶運動を充実させ、一人ひとりが過ごしやすい環境づくりを推進していく。②人権週間では、本の読み聞かせや学級での話合いを通して、自他共に大切にしていく心を育てる。 | ①なかよし委員会が中心となり、気持ちのよい他者への声のかけ方を紹介するなどして他者との関わり方を考えるきっかけをつくっていた。挨拶運動を実施することはできなかった。②人権週間では、他者に対する気持ちや接し方を振り返り、今後に生かそうとする子どもたちの姿が見られた。人権週間のときだけ人権を意識するのではなく、常日頃から意識できるよう、取組や活動を考えていく。 | B |
| いじめへの対応 | ①学校いじめ防止基本方針に基づき、週1回いじめ防止連絡会を開いて各学年の情報を共有し、いじめの早期発見、早期解決に努める。いじめを確認した場合は、早急にいじめ防止対策委員会を開き、迅速に対応する。②年2回アンケートを実施し、児童の思いに寄り添い、指導にあたる。 | ①週1回のいじめ防止連絡会では、ささいな子どもたちのやりとりも含め、各学年の情報を共有し、いじめの早期発見・解決に努めた。児童指導でも、担任だけでなく、学校全体で対応してきた。②年2回アンケートを実施し、児童の思いに寄り添ってきた。今後も横浜プログラムなどを活用し、より良い人間関係を作れるような指導を行っていく。 | A |
| 人材育成・組織運営（働き方改革） | ①キャリアステージに応じた課題や目標を面談により設定する。また、ミドルリーダーや主幹がメンターチームの講師として活動を行う。②主幹会を週に1回行い、学校運営上の議題を協議する。また、学校組織を見直し、全職員で学校運営ができる組織を目指す。③グループウェアを効果的に活用して、情報の共有化、事務の効率化を図ったり、組織・行事の見直しを行って、働き方改革につなげる。 | ①メンターチームの意欲的な姿勢から、主体的な研修になっていた。授業研では、ミドルリーダーや主幹が指導・助言等を行い、人材育成に関わることができた。今後も、学校全体で人材育成に取り組んでいきたい。②定期的に教務会を実施し、学校が直面している問題を共有、協議することができた。③ミライムを活用し、効率的に情報を共有をすることができた。時期に余裕をもって発信したり、教職員一人ひとりが確認することを習慣化したりするようにする。また職員室アシスタントの働きにより、教職員の業務の負担軽減につながっていた。 | B |
| **ブロック内評価後の気付き** | GIGAスクール構想により、小中学校に配付された児童生徒用の情報端末を利用した教育活動の推進に取り組んだ。6月には集合研修が制限されていたことから中学校主催で各校で研修を実施した。8月に緊急事態宣言で休校、分散登校となったが、各学校オンライン授業等の取り組みを行い、その結果の情報交換を行った。小6の中学校体験も2年連続して中止となったが、中学校で制作した中学校PR動画で代替した。様々な小中連携行事が制限される中、最善の対応を行ったと考える。ポストコロナにつなげたい。 | | |
| **学校関係者評価** | 10月より末吉中ブロックでの学校運営協議会が設置されたが、授業等を参観できず、残念だった。今後も小中の連携を深めていってほしい。学校は、感染拡大の中、状況に合わせて教育活動を進めてきたことがわかる。地域と行っている花育やふれあい給食はできないが、学校の周囲の花々を見ると気持ちが和む。学校だよりで子どもたちの様子をみると、遠足や修学旅行、運動会を実施できたことはすばらしいと思う。公園で遊んでいる子どもが少なくなったと感じており、体力を心配している。はやく子どもたちが感染を気にせず安心してすごせるようになることを願っている。 | | |
| **中期取組目標振り返り** | 本年度もコロナ禍の中、感染症状況に応じてガイドラインに沿うと共に柔軟に行事や年間指導計画の実施をしてきた。児童指導では引き続きいじめ防止と家庭環境把握に努め、それぞれのケースに寄り添った対応を組織的に行った。学習面では全校配布されたiPadの効果的な活用について夏以降研究授業で取り上げ、児童はもちろん教職員の技術向上を目指してきた。1年生の接続期にはスタートカリキュラムを実施し、幼保とも連携してカリキュラムの充実を図っている。グループウェアの活用が進み、教職員の働き方は改善されてきている。150周年の準備も進めていきたい。 | | |